

友達とのつながりを広げていく 集団作りについて考える



社会福祉法人 愛護会

金ヶ崎保育園

保育士 及川 まさ江

1.研究主題

友達とのつながりを広げていく集団作りについて考える

2.主題設定の理由

保育所保育指針には、おおむね5歳になると「基本的な生活習慣が身に付き、運動機能はますます伸び、喜んで運動遊びをしたり、仲間と共に活発に遊ぶ。言葉によって共通のイメージを持って遊んだり、目的に向かって集団で行動する事が増える。さらに、遊びを発展させ楽しむために、自分達で決まりを作ったりする。」とある。私が今、受け持つゆり組（4歳児）は、男児9名 女児11名 計20名のクラスである。一人ひとりみると、あそびの中で自分の思い通りにいかなくなるとすぐに怒ったり、手が出たりなど自己主張のぶつかり合いが多い。友達といることの喜びや楽しさを感じられるような活動やあそびの工夫、保育者の援助のありかたを工夫していく中で、友達とのつながりが広がり、集団で活動する事を楽しめる子ども達に育つのではないかと考え、本主題を設定した。

3.研究のねらい

- ・ 個々の育ちを大切にしながら、一人ひとりの子どもが十分に欲求を満たすような遊びの工夫と援助のあり方を探っていく。
- ・ 仲間といることの喜びや楽しさがお互いに感じられるような遊びの工夫、援助のあり方について探っていく。

4.研究の仮説

- ・ 一人ひとりの子どもの興味や欲求をとらえ、それを遊びに取り入れていくことで、友達とのつながりが広がり集団での活動を楽しめるのではないか。
- ・ 友達と一緒に集団での活動を体験し、色々なあそびを楽しむ中で、友達の思いや自分の思いを伝え合い、お互いの存在に気づき、友達と共感してあそぶ楽しさを感じ、人との関わりが広がっていくのではないか。

5.研究の内容

- ・ クラス集団や子ども一人ひとりの姿、発達を把握する。
- ・ 「友達とあそぶのが楽しい」と思えるような保育の工夫と援助のあり方について探っていく。

6.研究の方法

- ・子どもの実態を把握する。
- ・保育実践を通して、保育の工夫と援助のあり方を探る。

7.研究の実際

<子どもの実態>

遊びの中で自分の思い通りにならなくなると、すぐに怒ったり、手が出たりし自分の思いを強く通そうとする子が多いため、遊びが中断してしまう。また、特定の友だちとの関わりが多く、遊びがまとまっておらず長続きしない。

《実践》

4.5月

<11ぴきのねこの絵本との出会いから>

体を動かして遊ぶ事が好きな子ども達であるが、テレビのヒーローの真似から戦いごっこになり、トラブルになることがある。自分の思いを強く通そうとするY男は友達と遊びたいのだが、うまく「いれて」が言えず、友達にちょっかいを出してしまい、トラブルになることが多い。Y男は絵本を見る事が好きでいつも保育者の前に座って見ている。Y男だけでなくクラスの中でも一番人気だったのが『11ぴきのねこ』の絵本であった。この絵本を通して遊びが生まれ、友達とのつながりが広がっていくのではないか。

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none">・朝の遊びの中でY男は11ぴきのネコになり「にゃごにゃご ぼくは11ぴきのネコだよ にゃごにゃご」と言い友達に話しかけている。しかし、周りの子は気にせず、自分の遊びを続けている。Y男はなんで僕の話誰も聞いてくれないのかなと不機嫌そうにしながらも楽しんで遊んでいる。・朝の会で 保：「今日ねY男くんがね、とってもおもしろい遊びをしていたんだよ」 みんな：「えっ、なになに」と興味深々。 保：「あのね、みんな11ぴきのネコのお話すきでしょ。Y男くんね、ネコの真似をして遊んでいたんだよ。みんな	<ul style="list-style-type: none">・Y男が好きな絵本からネコになって遊んでいる。この遊びで友達とうまく関わりが持てたらという思いから、クラスの遊びの中に取り入れていきたいと思った。・Y男の姿をクラスみんなに伝えたいと思い、朝の会で発表をする機会を設けていく。・子ども達が興味を持ち始めてきている姿を大切に、話を進めていく。・Y男の言葉を引き出せるように、さりげなく声をかけていく。

<p>な知ってた」 みんな：「しらなかった」 保：「Y男くん、どんなふう我真似したか みんなに教えてくれない」 Y男：「にゃごにゃご ぼく 11 ぴきのねこ だよ にゃごにゃご」 ・その言葉を聞いて、みんなでY男の真似を して「にゃごにゃご」と、ネコの表現をやっ てみようとする子が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の、おもしろい・楽 しいという気持ちを大切に していく。 ・みんなの前でも、嫌がらず発 表してくれたY男に声をかけ 褒めていく。 ・クラスのみんなもY男の楽 しい遊びに少しずつ興味を示 しているのを感じる。
---	--

《考察》

- 友達とうまく関われずにいたY男、朝の会でみんなの前で発表をした事で、自分の考えた事がみんなに伝わり、嬉しいという気持ちが伝わってきた。また、友達とうまく関われるきっかけになってきている。
- 好きな絵本を通して、子ども達のおもしろい、楽しいという気持ちを大切にする事で、興味関心をもちみんなでネコになり同じ遊びを楽しむ姿が見られるようになってきている。

<にゃごにゃご ぼくたち ねこだよ>

Y男がネコになって遊んでいる姿がきっかけで、他の子ども達もネコの表現をして遊ぶようになる。子ども達の興味関心をとらえながら、クラス全体の遊びへとつなげていけるように援助していく。

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の遊びでY男が、 「にゃごにゃご ぼくは11ぴきのネコだよ。 どこかに、さかなはいないかな」 とネコになり遊ぶ姿が見られる。 R男も「にゃごにゃご にゃごにゃご」 と、ネコごっこが始まったが、一緒の場所 いてもそれぞれが別の事を話して遊んで いる。 ・M子とA子が 園庭の隅に生えていた草を砂 場に持っていき さかなを釣る真似をはじ める。 M子：「さかなつれないね」 	<ul style="list-style-type: none"> ・Y男が友達と関わりを持ちな がら遊んでいる姿を見守って いく。 ・子ども達が考えながら遊んで いる姿を大切にしながら、遊 びの仲立ちをしていく。

<p>A子：「ほんとだ、つれないね」 と首をかしげている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が描いた池を見て、魚になって遊ぶ子どもがでてくる。 <p>R男：「ぼく、さかなになる。すいすい」 M子：「わたしも、すいすいすいすい」と、さかなになって泳ぐ真似をはじめ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Y男は絵本でネコが大きな魚を釣って食べたことを思い出し <p>Y男：「おいしそうなさかな たべちゃうぞ」と、捕まえる真似をして、魚になった友達を捕まえようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚になりあそんでいた子ども達は「きゃあたべられちゃうよう」「いやだよ」「にげろ」と言い逃げ出す。『ネコ』と『さかな』の追いかっこが始まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラインパウダーを利用して池を描くことで子ども達の興味が高まるのではないか。 ・ネコやさかなの表現を子ども達と一緒に楽しんでいく。 ・保育者もやりとりをしながら遊びを楽しんでいく。
--	--

《考察》

- 友達が遊んでいる姿をみて、やってみたいという思いになり遊びに入ってくる子もいたが、すぐに飽きてしまい長く続かないことが多い。遊びに誘っても興味がなく自分の好きな遊びをしている子が多い。
- ネコと魚の追いかっこが始まり Y男がとても良い表情で遊んでいるが、友達に捕まると、「なんでぼくをつかまえるの」とトラブルになりやすいのでY男の気持ちに寄り添いながら、友達との関わり方を繰り返し伝えていく。

<ネコと魚の鬼ごっこ - さかな たべちゃうぞ - >

子ども達が始めた追いかっこを、一緒にルールを考えて遊ぶ事で、みんなが楽しむことができるのではないか。Y男はすぐにルールを覚えて友達に教えながら遊ぼうとしていた。

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・保：「ネコに捕まったらどうしようか」 <p>Y男：「つかまったらここで（池の中）まったら」と、張り切って話し合いに入ってくる。</p> <p>保：「いい考えだね」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そして、自分が考えたルールを友だちに教 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなルールにするか子ども達に問いかけてみる。 ・Y男が考えを受け止めて遊びに取り入れていく。

<p>えながら遊ぼうとする。しかし、うまくルールが友達に伝わらず、又、人数も集まらず、張り切っていたY男もすぐにその場から立ち去ってしまう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がけの工夫が足りなかったのではないかと反省する。
--	---

翌日

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・R男：「せんせい、11ぴきのネコしようよ」 保：「よーし やろう」 とラインパウダーで大きな魚を描いていく。すると、 K子：「なにしているの」 R男：「さかなの鬼ごっこだよ。いっしょにあそぼう」と上手に遊びに誘い出す。 ・それを聞いていた、Y男も遊びに入ってくる。4、5人で遊んでいたのだが10人に増えていた。 ・集まった10人で遊ぶが、ネコだった子がネコの友達を捕まえたりして遊びが続かない。 Y男：「ぼくはネコだよ。つかまえないでよ」と大きな声を出し、友達を押してしまう。 保：「タッチをされて嫌だったんだよね。でも、押さないで、僕はネコだよって言えば良かったんだよ。Y男くんだって押されたらどう」 Y男：「いやだ。〇〇ちゃん、おしてごめんね」と、謝り、その後押ししたりせず間違っ てタッチをされても言葉で知らせ遊ぶようになってきている。 ・その後、遊びの中で 「さかななのにだれもつかまえてくれない」 「だれがねこで、さかなかわかんないよ」と子ども達の声が聞かれ、遊びが中断し 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者もネコや魚になり遊び楽しんでいく。 ・ラインパウダーで魚を描く事で、子ども達の興味をひき遊びを高められるようにしていく ・R男が上手に遊びに誘っている、その姿を大切にし、一緒に声をかけ遊びに誘っていく。 ・みんなと遊ぶと楽しいね等と声をかけながら、一緒に遊び楽しんでいく。 ・トラブルになった時は仲立ちに入り、お互いの思いをしっかり聞きながら話をしていくようにする。 ・押すのではなく、言葉で自分の気持ちを伝えられるように教えていく。

<p>てしまう。</p> <p>保：「そうだね、誰が魚でネコか分らないね。どうしたらいいかな」と問いかけてみた。</p> <p>H子：「わかんないよ。せんせいかんがえてよ」</p> <p>と、なかなかいい考えがでてこない。</p> <p>保：「じゃあ、ネコってわかるように、帽子をかぶるってどう」</p> <p>H子：「いいんじゃない」</p> <p>と遊んでみるが、帽子を被っている子が多く、またわからなくなってしまう。</p> <p>保：「困ったね。みんなは何と何になって遊んでいるんだっけ」</p> <p>K子：「ネコとさかなだよ。そうだ、おめんつくったら」</p> <p>保：「それだったら、わかりやすいかもしれないね」</p> <p>H子：「いいね、H子もつくりたい」とお面作りを楽しみにする姿が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がけが足りなかったようで子ども達からの考えがでてこなかった。言葉を引き出す声かけの難しさを改めて感じた。 ・目印として、ネコ（鬼）が帽子をかぶる事を案として出してみた。 ・子どもの言葉を引き出せるように言葉がけの工夫をしていく。 ・保育者がすぐに答えをだすのではなく、子ども達の考えを待つようにする。 ・子ども達と早速お面作りに取り組めるように準備をしていく。
--	---

<お面作り>

子どもの姿	保育者の思いと援助
<ul style="list-style-type: none"> ・ネコ、さかなの絵が描いてある画用紙に自分なりにクレヨンで塗っていく。水玉模様のネコにしたり、耳にはりボンを描いたり、男の子はカッコいいネコにするといい、虹色に塗る子もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にネコ・さかなの絵を描いておく。楽しんで色を塗っていく姿を見守りほめながら進めていく。

<お面をつけて遊んだよ>

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・「ネコがおに、さかながにげるんだよね。」 「タッチされたら（池の中）まつんだよね」と友達同士で確認しあう姿がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶ前に鬼ごっこのルールの確認をする。全員が話を聞けるように工夫をしながら話をするようにする。ルールは絵

<ul style="list-style-type: none"> • わざとつかまり、鬼のネコになりたがる、つかまっても「えー、つかまってないよ」と言い鬼になりたがらない子がでてくる。 • 「わかったじゅんばんで おにすればいいんじゃない」「おんなのこがさいしょにネコして こんどは おとこのこがネコしたら」「つかまったら やだやだしないで まってるの」「つかまったらさ つかまってないひとを がんばれっておうえんしたらいいんじゃない」といろいろな考えがでてくる。 • お面をつけたことにより、ネコとさかなの区別が出来るようになり、楽しく友達と関わりながら遊ぶ姿が見られるようになってきている。 	<p>に描いて説明をしたり、実際に保育者がやって見せていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネコ（鬼）になりたがる子が多かったので、どうしたらいいか話し合いを持つ。 • 子ども達の考えを取り入れながら順番に鬼ができるようにしていく。ルールも変えながら、楽しんで遊べるようにしていく。
--	---

《考察》

- Y男は遊びの中で自分の思い通りにならないと友達に強い口調で怒ったり、手が出たり、友達とのトラブルが多かったが、話し合いに張り切って参加し、自分の考えを話したり、ルールを守ってあそぼうとする姿が見られるようになってきている。
- お面をつけた事により、それまで遊びに無関心だった子も喜んで遊びに入るようになってきているが、捕まっても、遊び続ける子、勝ち負けにこだわり捕まると、負けたという思いからその場から立ち去ろうとする子などの対応で遊びが中断してしまうことが多かった。
- 11 びきのねこの絵本を通して、友達とのやりとりが見られるようになってきている。その中で、自分達で遊びを工夫して遊ぶ姿も見られるようになってきている。

6.7月

<11 びきのねこのつりごっこ — 1 1 びきのねこ しゅっぱつ — >

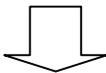
遊びでネコになり遊んでいた子ども達。散歩に出かける時も「にやごにやごネコになって、でかけようよ」「さかながいるかさがしにでかけようよ」「にやごにやご 1 1 びきのネコ しゅっぱつ」と、さかな探しが始まった。友達と共通のイメージを持ち遊ぶことで、さらに遊びが広がっていくのではないかな。

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> • 11ぴきのネコになって、散歩に出かける。「にゃごにゃご」「おさかなつりにいこうよ」等と子ども達なりに考えた歌を口ずさみながら歩いている。 • すると、草を釣り竿に見立てて、自然に魚つりが始まる。「つれるかな。つれないね」と、草を用水路にたらし、じっと待っている。はじめは魚つりをしていたのが2～3人だったが、魚つりをする人数がどんどん増えてくる。友達が落ちないように腕を掴んで抑える子もいた。 • 歌を歌いながら歩いていくと、Y男が飼い猫を見つけて「ともだちがきたよ」と喜ぶ。他の子もその声を聞いて、「ほんとうだ。にゃごにゃご。どこからきたの」「にゃごにゃご」と話し楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 遊びがもっと楽しくなるように子ども達の言葉をつなげて歌を作っていきたいと感じた。 • 用水路で釣りごっこをする際は、危険のないようにしっかり位置づく。 • 「本当だね、みんなが楽しく歩いていたから、会いに来たのかもね」とネコに会えて嬉しい気持ちを一緒に味わう。

＜うた作り —にゃご にゃご にゃご—＞

「にゃごにゃご」「おさかなつりにいこうよ」等と子ども達なりに考えた歌を口ずさみながら歩いている。子ども達のことばを拾いながら、うたを一緒に作ることで遊びが楽しくなっていくのではないか、という思いからオリジナルの歌を作っていく。その際、子ども達の発想を大切にしていこう。

子ども達が話していた言葉
<ul style="list-style-type: none"> • にゃご にゃご にゃごにゃご • おなかが ペコペコだよ • おさかなつりに いこうよ • おおきいさかなを つろうよ



—さかなつりのうた—

にやごにやご にやごにやご
さかなつりに でかけよう
ぼくたち おなかがぺこぺこ
おおきいさかなが つれるかな
つりざおもって でかけよう



Piano

にやごにやごにやごにやご
さかなつりにでかけよう
ぼくたちおなかがぺこぺこ
おおきいさかながつれるかな
つりざおもってでかけよう

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none">・にやごにやご にやごにやごとネコになり、楽しんで歌を口ずさみながら歩く。 小屋が見えると、 H子：「あれ、ウヒアハのいえじゃない」 みんな：「キャー 可愛い」 と尝试してみたり、林の間を通ると、 「なにかがでてきそうだね」 「なんか、可愛いね。ウヒアハいないよね」 と、絵本の中のイメージが膨らみ、走って逃げだす子もいる。	<ul style="list-style-type: none">・オリジナルの歌を歌いながら歩くことで、11ぴきのネコの世界が広がっていけるようにする。一緒に歌いながら楽しんでいく。・子ども達の発想を大切にし言葉を引き出せるような言葉かけの工夫をしていく。

<p>・「さかな、いないね」「11ぴきの ネコみたいに さかなをつつてみたいのに」という声も聞こえてくる。</p> <p>保：「そうだね、先生もさかなを釣ってみたいけど、見つからないね」</p> <p>K子：「そうだ。おめん みたいにつくってみようよ」</p> <p>H子：「つくりたい。つくりたい」</p> <p>Y男：「さかなつりを みんなでしようよ」と さかなつりに期待を持ち始める。</p>	<p>・子ども達の言葉を受け止めていく。</p> <p>・さかなつりが楽しめるように、材料を準備する。</p>
---	---

<みんなでつくろう>

さかな釣りに期待を持ち始めた子ども達。友達と一緒に作ることで楽しく活動を進められるのではないか。

・さかな作り

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<p>・さかなの絵が描いてある画用紙に自分なりにクレヨンで塗っていく。好きな色を喜んで塗っていた。</p> <p>・「ぴかぴかのさかなにする」「これはおかあさん さかなだよ」とおしゃべりを楽しんでいる。「はやくさかなつりがしたいね」「おっきいの、つるよ」という声も聞こえてくる。</p> <p>・出来上がったのを見せ合い「かわいいね」「みずたまもよう いいね」等と褒めあう姿もみられた。</p> <p>・「にゃご にゃご にゃごにゃご」と さかなつりのうたを歌いながら楽しんで取り組んでいる姿がみられる。</p>	<p>・友達と楽しく取り組めるように進めていく。</p> <p>・事前にさかなの絵を描いておく。</p> <p>・楽しんでいる姿を見守り、褒めながら進めていく。</p> <p>・「みんなでさかなつりをしようね」等と声をかけ、さかなつりに期待を持ちながら楽しく製作が進められるようにしていく。必要に応じて援助をしていく。</p> <p>・子ども達なりに工夫して色を塗っている姿を褒めていく。</p>

・池作り

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<p>・模造紙を3枚貼り合わせた紙を池の形に切り、絵の具を手につけて、手形をおしている。絵の具の感触が楽しく「おもしろいね」</p>	<p>・絵の具の感触を楽しめるようにしていく。友達と力を合わせて作っているということ</p>

<p>「ぬるぬるするね」などと話をしながら喜んでいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙を丸めて岩を作り、池の周りに置きテープで固定していく。 	<p>感じられるように援助していく。</p>
---	------------------------

・11ぴきのつりごっこは保育参加日でも行い、親子で触れ合いを持ちながら楽しんだ。

○魚を釣った後に絵本のイメージを膨らませながら「たいりょう たいりょう」などと言い喜ぶ姿がみられた。その言葉を取り入れながら「たいりょうのうた」を作った。

<p>子ども達が話していた言葉</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・たいりょう たいりょう ・おさかな いっぱいつれたよ ・おなかいっぱい たべようよ



—たいりょうのうた—
 たいりょう たいりょう
 たいりょうだ
 おさかないっぱいつれました
 いっぱいつれた おさかなを
 おなかいっぱい たべるのだ



Piano

た い り ょ う た い り ょ う た い り ょ う だ

お さ か な い っ ぱ い つ れ ま し た

い っ ぱ い つ れ た お さ か な を

お な か い っ ぱ い た べ る の だ

＜きりん組（二歳児）との交流　ーいっばいつれて　よかったねー＞

みんなで楽しんだ魚つりごっこを他のクラスのみennaと楽しみたいと思いきりん組を招待し、交流をすることにした。

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・さかなつりごっこの準備を皆で行い、きりん組の保育室まで迎えに行く。ゆり組が作った歌に合わせて池の周りを歩く。きりん組に合わせて歩いたり、「どの　おさかなにする」と聞いてみたり、釣った魚を招待のために作ったカバンの中に入れてあげている。又、自分が使っているさおをさりげなく貸し、手を添えて一緒に釣り、小さい子が喜ぶように関わる姿がみられる。Y男は張り切って「みんなもおおきな　さかなをつろうね」と優しく声をかける姿がみられる。 ・K男は弟と一緒に参加する。弟は手をつないで魚を釣りたいのに、嫌がることをわざとやったりして魚を釣らせなかった。その後K男は手をつないで遊ぼうとしていた。褒められたことにより、嬉しそうな表情をみせ、それからは恥ずかしがりながらも弟と関わろうとしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流をする前に再度、小さい子に対してどう接したら、喜んでくれるかを確認し合っていく。 ・小さい子に優しく接しようとする姿を見守り、大いに褒めながら自信へとつなげていく。 ・全体を把握しながらすすめ、交流が楽しめるようにしていく。 ・K男の側に行き、接し方をさり気なく教えたり、K男なりに関わろうとしている姿を「さすが、お兄ちゃんだね」「S男ちゃんとっても嬉しそうだよ」などと声をかけて褒めていく。
<p>交流後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きりんさんに喜んでもらえて、良かった」「うれしい」「また、いっしょにあそびたいね」という子ども達の満足した気持ちが伝わってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流の良さを改めて感じた瞬間であった。子ども達の気持ちを大切に伸ばしていきたい。

《考察》

- K男はやってはいけないと思いつながらもやってしまうように感じた。関わり方が分からない様にもみられた。弟と妹がいることで自分のことも見てほしいという思いが感じられるので、K男とのスキンシップを大切にしていく。

- Y男は同年齢の友だちだと、自分の思いを強く通すが、“自分は年上だから我慢をしないといけないという気持ち”と“お世話をして喜んでもらえて嬉しい”という気持ちにつながっており、交流の良さを感じた。
- さかなつりごっこは、話し合いをすることで自分の思いや考えを話したり、人の話を聞く姿が見られるようになってきている。さかな作りや池作りを通して、友達との関わりを楽しんでいた。また、自分達で作ったという達成感も見られた。今後、友達との関わりを深めていく活動を大切に進めていきたい。
- 子ども達の表現力を大切にしなければならないのに、お面も魚も保育者が用意した物に色を塗らせて終わらせてしまったことが反省点である。

7月

<グループ作りをしたよ>

グループ活動を通して、友達との関わりを深めていく。

年長組のお泊り保育後から、さくら組(5歳児)により一層憧れをもった子ども達である。朝の活動の後、さくら組がリーダーとなり、みんなを集める姿を見て、「集まってください。」とさくら組の活動の真似をして遊んでいる。“さくらさんみたいになりたい”“さくらさん かっこいい”と話ず姿が見られる。その憧れのさくら組にグループ作りについて話を聞く機会を持ってから、クラスでの話し合いをしていく。

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・やっぱりさくらさんってすごいよね。なんでも知っているという憧れが深まる中、早速グループ作りに入る。 保：「どんな名前のグループにする」 Y男：「かっこいいクルマのなまえにしたら」 女の子：「えー。ちがうのがいい」 Y男：「なんで、ぼくくるまがいいのに」と怒りだしてしまう。 保：「Y男くんは車が大好きで、色々な車の名前が分かるんだもんね。だから、車がよかったんだよね」 Y男：「うん。そうだよ」 と、言い表情が柔らかくなった。 保：「さくらさんはどうやってきめてたのか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ作りについてさくら組から教えてもらったことで、憧れの気持ちをさらに抱けるように援助していく。 ・子ども達の声に耳を傾け共感しながら、話し合いを進めていくようにする。 ・Y男の気持ちをしっかり受け止めていく。 ・保育者からではなく、子ども

<p>な」</p> <p>Y子：「あのね、すきな とりにしたって」</p> <p>M子：「とりにしたら」</p> <p>保：「それじゃ、さくらさんと同じになっちゃうね。好きな食べ物とか、絵本とか、いろいろあるよね」</p> <p>Y男：「じゃあ、ウヒアハ」</p> <p>H子：「11ぴきのネコ あるよ」</p> <p>M子：「とらネコたいしょう もいいね」</p> <p>と、11ぴきのねこの絵本に出てくる登場人物がどんどん出てくる。</p> <p>『11ぴきのねこ・ウヒアハ・とらねこたいしょう・さかな』の4つのグループに決めた。</p> <p>・グループ活動で使う当番カード作りでは、K男は絵を描くことが得意で、夢中になって描く姿が見られた。K男が描く絵を見て周りの子が「やっぱりKくんって、かくのじょうずだよ」「これさあ、どうやってかくの」「おしえてよ」と言われてとても得意げな顔を見せながら「こうやって、こうやってかくんだよ」と喜んで、描き方を教えていた。</p>	<p>達の方から考えが出てくるような言葉の工夫をしていく。</p> <p>・子ども達の考えをうまく広げながら、グループ作りができるようにしていく。</p> <p>・「上手にかけたね」「〇〇ちゃんの絵も可愛いね」などと声をかけ、自信へとつなげていく。</p> <p>・K男の嬉しそうな表情、友達とのやりとりを大切にし、遊びが楽しめるように仲立ちをしていく。</p>
---	---

《考察》

- グループ作りでは、自分達なりの考えを出し合い保育者と一緒に、進めることができた。Y男は自分が好きなグループ名（車）に決まらず怒ってしまうのかと思ったが、「くるまじゃなくてもいいや。ウヒアハがあるし」といい、とても良い表情で最後まで参加していた。
- グループ作りについて、さくら組に聞きに行ったことで、さらに憧れを持った子どもたちである。

8.9月

- ・自分達で育てたピーマンの虫食いの跡を見て、「へんなねこが たべたんじゃない」と楽しい発想が生まれ友達同士で楽しむ姿が見られる。
- ・散歩では、11ぴきねこシリーズ「11ぴきのねこ ふくろのなか」の絵本を通して、立て札探しが始まった。今までとは違った視線で散歩を楽しむことで、色々な発見をしながら友達と楽しく過ごす事で、遊びがまた広がり集団で

活動する事を楽しめる子ども達に育っていくのではないかな。
—クラスだより 第13号より—

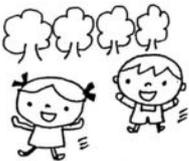
「あ、たてふだがある!」「なにかかいてるよ!!」 ～11ひきのねこの探検ごっこ～

先日、「11ひきのねこの探検ごっこ」の絵本を保育者に読んでもらった子ども達。ねこ達が行く先々に「～してはいけない」という立て札があり、「～してはいけない」と言われるといたくなるねこ達が立て札の指示通りに色々なことをやっていると、ウヒアハという化け物に捕まってしまうお話しなのですが、「せんせい、たてふださびしにいてみようよ!」という子ども達の発想から、立て札探しの探検ごっこが始まりました。「にゃごにゃごにゃごにゃごにゃご」とオリジナルの探検の歌を歌いながら歩いていくと、早速、立て札発見!! 「あ、たてふだがある」と指を差し、大興奮の子ども達。「せんせい、なにかかいてあるの?」と看板に書いてある文字に興味津々です。「交通ルールを守りましょうとかいてあるよ」と知らせると、「てもあけてわたらなまよ!」と、看板に書いてある通り、交通ルールを守り、道路を渡っていました。その後も次々に看板発見!! 「このためきのえ、さきもあたえね」「ちっちゃいたてふだがある!!」と、沢山の発見をしながら歩いてきました。野良猫にも出会い、「とらねこたいしょじゃない?」「ほくたちのなやまだ!」と大喜びでした。今後も、沢山歩いて足腰を丈夫にしなから、探検ごっこを通して、いろんな発見を楽しんでいきたいです。



—クラスだより 第15号より—

せせらぎ公園に行ってきたよ!! ～小遠足～



10月27日(木)、せせらぎ公園へ小遠足に出かけました。1日過ごしていた天気にも恵まれ、ドキドキ、ワクワクしながら行ってきました。

公園に着くと、「わわがある!」「ひろいね!」と大興奮の子ども達。早速おやつを食べ、みんな探検をしました。

公園内を歩いていくと、様々な看板があり、子ども達は「11ひきのねこの(絵本に出てくる)たてふだじゃない?」「ウヒアハでてるかも」「せんせい、これ、なにかかいてるの?」と興味津々!! 看板には、公園内に生息している昆虫について書いてあり、みんな探検しながら歩いてきました。

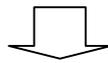
川沿いの方を歩いていくと、川の中にキラキラしたものを発見!! なよと、**魚**でした!! 「せんせい、さかないる!」「あれ、なに?」「すごい、いっぱい!」と目をキラキラさせ、魚の川の(ま)りを夢中に見ていた子ども達です。

真っ赤に色づいた紅葉を見つけたり、長いハビの抜け殻を見つけたり、栗を拾ったり、たくさん秋を見つけ、思いきり楽しんでくることができました。



—冒険のうた—

にやごにやご にやごにやご
 みんなで冒険に でかけよう
 あそこにたてふだがある
 お宝のぼしょがかいているのかな
 みんなでさがしにでかけよう



Piano

にやごにやご にやごにやご
 みんな でぼう けん に で かけ よう
 あ そこ に た て ふ だ が あ る
 お た か ら の ぼ し ょ が か い て る の か な
 み ん な で さ が し に で かけ よ う

11月

<集団あそび…ウヒアハのかくれんぼ >

さくら組に遊びを教えてもらいながら十字鬼・氷鬼など集団遊びと一緒に楽しむようになってきている。前から遊んでいた、かくれんぼの鬼をウヒアハに変えて遊ぶ事でクラス全員で楽しみ遊ぶことができるのではないかな。

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ウヒアハのかっこいい・強いというイメージから、鬼になりたがる子が多い。Y男はなりたかったウヒアハの鬼になれたということもあり「ウッヒヒ アッハハ」「ネコ 	<ul style="list-style-type: none"> ウヒアハからつなげた楽しい遊びになるように援助し、ルールを守って遊ぶことの大切さを伝え、遊びを盛り上げて

<p>つかまえちゃうぞ」とはりきって友達を探し始める。「ウヒアハにみつかったちゃうよ」とハラハラドキドキしている。なかなか遊びの中に入れていない子が何人かいたが、「○○ちゃんもいっしょにあそぼうよ」と友達を誘い遊ぶ姿が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> しかし、Y 男はずっと鬼をしたく友達を見つつけようとせず、「ねえ、ウヒアハかわって」とトラブルになり遊びが中断してしまうことがあった。K 男は遊びには興味があり見ているのだが、「はしりたくない」「つかれるから」といい消極的であった。そんな Y 男と K 男の姿を見て、クラスの女の子たちは「Y くんたち、そんなことすると、たのしくなくなるよ」「なかよくあそぼうよ」と言われて、はずかしそうであった。 	<p>いく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しんでいる姿を見守りながら、保育者も一緒に楽しんでいく。 なかなか遊びに入れていない子に対しては、手をつないで一緒に隠れたりしながら楽しんでいく。 Y 男の気持ちを受け止めながら、友達の思いも伝えるようにした。 K 男と一緒に隠れたり、ウヒアハの鬼をし、保育者と一緒に遊ぶことで楽しさを知らせていく。
--	---

《考察》

- Y 男は周りの友達に「ウヒアハかわって」と言われたことが嫌で不機嫌そうな顔をし遊びをやめようとしたが、Y 男の遊びたいという気持ちをしっかり汲み取り、そして、友達の思いを伝えることで遊びを止めず最後まで参加できた。お互いの思いを聞き、伝えるようにしていく。
- K 男も保育者と一緒に体を動かす事で、遊び終えた後、「楽しかったな、またやりたいな」という声が聞かれ、友達と一緒に遊ぶ事の楽しさを味わう事が出来ている。
- 以前からやっていたかくれんぼだったが、大好きなウヒアハを取り入れることで、さらに喜んで遊ぶ姿が見られた。ルールを理解しながら楽しむことができた。又、自分で作ったネコのお面を利用したことで、喜んで遊んでいた。
- 物事を言葉で伝えたり、話したりする中で、相手の話を聞く力も育ってきている。

1月

<はしをわたるな>

大好きな絵本を通して共通のイメージを持ち、友達と関わりながら遊び、言葉で自分の思いや考えを伝えられるようにしていく。

子どもの姿	保育者の思いと関わり
-------	------------

<ul style="list-style-type: none"> ・カラー積み木を並べて遊んでいる。 子ども：「さあ、つみきをならべよう。ここここをつなげよう」 と、どんどんカラー積み木を並べていく。 ・橋が完成。その橋をうれしそうに渡り始める。 R男：「よいしょよいしょ はしをわたるぞ。 なんだか、11ぴきのネコのはしみた いだな」 保：「ほんとうだね。なんかウヒアハに会 いそうだね」 「大変大変。K男くんウヒアハがきた よ」 M子：「ほんとだあ、にげろ」 遊んでいる姿を見て、Y男・H子・S子・ K子も「まぜて」と遊びに入ってくる。 ・すると、ウヒアハになったR男とK男が「は しをわたるな」と、通せんぼをする。する と、さくら組が考えた“とりとりじゃんけん”の真似をして K子：「じゃんけんして、かったら いける の」 保：「いい考えだね。やってみようよ」 M子：「にゃごにゃごにゃご」 (ねこの鳴き声でじゃんけんをする) R男：「じゃんけん ぽん」 と、繰り返し遊ぶ姿が見られた。 ・また、遊びをより楽しむために自分達でル ールを変えたり、自分なりに考えて話す姿 が多く見られた。友達が考えた遊びを「い いね」といい、遊びの中に取り入れる姿も 見られるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから何が始まるのか、子 ども達が協力し合っている姿 を見守っていく。 ・R男の言葉を聞き逃さずに、 遊びの中に取り上げていく。 ・丁度その頃、ホールを抜け出 し部屋まで走って遊んでいた K男も11ぴきのネコの橋の遊 びに興味を持つかなと感じさり 気なく誘っていく。 ・K男が遊びに興味を持ち始め ていたので仲立ちとなり、友 達と関わりながら、やりとり が楽しめるように配慮してい く。 ・子ども達の方から何かいい考 えが出てくるように見守って いく。 ・子ども達の中で遊びを考えな がら遊ぶ姿が見られたので、 その姿を見守りながら一緒に 遊びを楽しんでいく。 ・友達に言葉で伝えたり、話し 合いができるように仲立ちを していく。
--	---

《考察》

- K男をさり気なく遊びに誘ったが、楽しめるかどうか実際のところ心配であつ

たが、R男という友達の存在で最後までみんなと一緒に遊ぶことができた。友達といふことの喜びや楽しさを感じ仲間とのつながりを感じた。Y男も同じ目的に向かって楽しく活動するために、それぞれが自分の役割を果たしながら、考えたルールを守りながら遊ぶ姿が見られた。

- ただ初めは、積み木を渡って遊んでいたが、R男が「11ぴきのネコのはしみたい」と言ったことがきっかけで遊びが広がっていった。保育者の仲立ちの元で、絵本のイメージを膨らませ、又、共通のイメージを持ちながら、子ども達なりに考えながら遊ぶ姿が見られ成長を感じた。
- 保育者との関わりの中で、同じ目的を持ちながら、友達と一緒にいることが楽しくなっている。4歳児なりに遊びに工夫をしながら、友達と同じイメージをもち遊んだり行動したりできるようになってきており、仲間とのつながりも広がってきていると感じる。

2. 3月

<11ぴきのねこになって あそぼう>

大好きな絵本を通して共通のイメージを持ち、友達との関わりの中で、表現する事の楽しさや友達と遊ぶ事の楽しさを味わう事ができるよう子ども達の姿を見守っていくようにする。

子どもの姿	保育者の思いと関わり
<p>・カラー積み木を並べて、はしをわたるなど言いながら、じゃんけんをして遊ぶ姿が見られる。</p> <p>K男：「ぼく、ウヒアハする」</p> <p>R男：「ぼくは、ネコだよ。にゃごにゃご」と、とても良い表情を見せながら遊び始める。H子は遊びに混ざりたそうにしているが、なかなか入ってこれずにいる。</p> <p>保：「H子ちゃんはさかなかな」</p> <p>Y男：「H子ちゃん さかなする？ぼくはネコだよ」</p> <p>H子：「ネコがいい」</p> <p>Y男：「じゃあ、いっしょにしよう。ぼくはさかなをさがしに行くよ。さかなどこかな」「ねこはさかなをさがしにいきます」</p>	<p>・子ども達が共通のイメージを持ちながら遊ぶ姿を見守っていく。</p> <p>・H子の遊んでみたいという姿を見逃さず、声をかけさり気なく誘っていく。</p> <p>・H子が友達と関わらながら楽しんで遊べるように、やりとりも楽しめるように仲立ちとなり配慮していく。</p> <p>・子ども達の中で話を考えなが</p>

<p>と、言いながらウヒアハの橋を渡りだす姿が見られた。</p> <p>K男：「はしをわたるな」</p> <p>Y男：「さかなをさがしにいきたいんです。とおしてしてください」</p> <p>と、自分達なりに考えて話しながら遊ぶ姿がみられた。H子もY男の後を追いながら真似をしながら遊んでいる。</p>	<p>ら遊ぶ姿が見られたので、その姿を見守りながら一緒に遊びを楽しんでいく。</p> <p>・友達に言葉で伝えられるように仲立ちをしていく。</p>
--	--

《考察》

- H子は最近になり、友達と関わらず一人で遊んでいる姿が多く見られるようになってきている。笑顔も見られず何をして遊んだらよいかわからない様子もあり、保育者の側から離れないこともある。H子の遊んでみたいという姿を見逃さず、さり気なく遊びに誘うことで笑顔を見せながら友達と一緒に遊ぶことができた。友達といることの喜びや楽しさを感じながら仲間とのつながりが高まっていけるように仲立ちをし楽しく活動ができるようにしていきたい。
- 保育者との関わりの中で、同じ目的を持ちながら、友達と一緒に遊ぶことが楽しくなってきた。4歳児なりに遊びを工夫しながら話を考え、遊ぶ姿も見られる。他のクラスにネコの劇ごっこを発表したいと考えていたが、クラス内でのインフルエンザ蔓延があったりし交流する機会がうまくとれずクラス内での遊びで終わってしまっているが、引き続きクラス内で遊び楽しんでいきたい。

8. 研究の結果と考察

- ・ 計画は常に見通しをもって実践するために必要である。はじめは、少数でねこになり遊んでいたが子どもたちの興味や要求をとらえることで友達とのつながりが広がってきている。興味あることから、活動につなげていくことで、子ども達が共通のイメージをもち、遊ぶ姿が見られるようになった。
- ・ あそびの中でルールを守ることの大切さをすこしずつ理解し、友達と関わってあそぶ姿が見られるようになってきた。
- ・ 年齢や発達にあった集団遊びを簡単なものから繰り返し遊び、積み重ねていくことが大切であると感じる。
- ・ 友達と関わる姿を育てるためには、集団遊びや異年齢交流を通じて友達と一緒に遊び、楽しかったという思いや満足感・達成感を味わうことが大切であると改めて感じる。

9.今後の課題

- ・異年齢交流を通して、“自分は小さい子よりも年上である”“お世話をして、役に立ってうれしい”という気持ちも育ってきているので、今後も交流も意識しながら進めていきたい。
- ・子ども達の状態をよく把握するためにも、日々の記録を大切にし、反省をしながら、今後の保育に取り組んでいきたい。
- ・一人ひとりの言葉や育ち、思いを汲み取りながら、常に気づきの保育に心がけていきたい。